

日光道中略記

土心貳番

庫	文	閣	内	
七	函	一	七	和
七	架	一	七	書
		冊	號	類



地四二

内閣文庫	
番號	和 36474
冊數	11 (8)
函號	177 1018

六上



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



田1

日光道中畧記 六上



日光道中畧記卷之六上

起于笹原新田止于宇都宮宿



笹原新田野州都賀郡

江戸より武指武里六町女間余小金井宿地内
 たり堀田相模と隔分性古ハ壬生辰わらうし
 後作余隙とるる尚所ハ美治二年小金井
 宿の民此地の民と戮力して南祭せり故
 金井村新田と唱へりて之を世系なり
 世系新田と改む
 稲荷社左

村民持

佐竹林右

佐竹願下り

祐田原右

佐竹林の辺なり又五千石原ともいふは此の

言ふ千石なりといふもさうなり右のうへ荒波

山加波山足尾山左のうへ高原日光赤城の

山望望

下石橋村

江戸より市之里拾六町廿間垣田相模と願

台開發の年代定つらざるをいふは上大

願中大願下大願の三村なり上石橋

願の二村若原村と合せると六ヶ村通して一村

なり其のうへ天願をいふ内裏願村と

當一の慶長十二年の以りや中大願村の古

民を田尾張保坂雅楽用ふる孫再ひ尚村

を開闢せしむるに六ヶ村願ちりなりや

寶永四年乃水櫃ふとせし下石橋村の名

つと又中右より元禄七年より京都宮願

より同八年より寶曆十二年より沓料所と

あり同十三年より休倉腹の属一天明七年
より清料所となり寛政十一年再び休倉
腹となりて今は宿とて村名の起りし詳
らざるれむし池上明神前の水流石橋
あり今い古橋といふ土人の石の橋と唱ふ
これ村名の起るといふなりとて此村旅人
の憩息所なりて石の橋立場といふ
旭松右
松並木のうち大木を東のうのこ枝葉
暢茂せし左朝日松と名けり近き以て

立木のまき指すあり此を今いきり
一里塚

日中橋より二拾之里の間に
八幡社右

多功村の内より村民持
池上明神社右

村民持むしこの社の邊松枝の大木あり
おほい盜賊うれしきして往々旅客の燭を
なせし六洲神は魚名を員せし盗人乃

神の心をナセリ

薬師堂左

村民持

星官明神社左

村の鎮ちりりり村民持

不動堂右

當山流流験江戸青山鳳閣寺配下左系坊持

愛宕社右

多切村の内なり村民持

蛭子塚右

蛭子塚右

塚上蛭子宮ありり人

地藏塚左

村民供養の為に築きしり由志地務塚と名付

石橋右

石橋右

江戸より廿二里廿四里乃る金井右

き里半日光の方雀官右一きりり本文町信宗

ありの津代を所性古字都官洞ノ属也り

中古りり津料所りの端決りなりり年

代詳より人臣か人臣か人臣か
修立の事をつとむる所の家名を新古邊
先祖伊澤近江守同左官連先祖伊澤出雲守
中陣郡守先祖伊澤武敏守ハミヤミ多功
左殿より多功石守令の宗朝京都海部國經
侍下慶長二年多功の城没落の後右之人
尚篇の土着の百姓と成りて居りしに
記福とも思ふべき事詳なるを知らし
今も三人の家の名を記し居りしを
尚篇の口名のかつてよき事とす

わたりしは伊澤近江守の御代に
愛宕社右の御代に
年代詳より社領左殿の御代に
尚篇の土着の百姓と成りしに
白山権現社右
村民持
牛塚左
由来詳より下場の御代に
花本権現社右
花の本宿内の御代に
花の本地名の御代に

宝光院右

多功村の内あり真言宗薬師寺村就奥寺
の末麻尾山西禪寺と号し本尊弥陀を安
坐とて毎年申寺焼七石の 浄土を
下し娑婆境内薬師堂及び嘉暦四年
の乃古碑あり

西念寺右

日村の内なり真言宗薬師寺村就奥寺乃
末雲光山蓮華院と号し慶安二年寺焼
七石乃 浄土を娑婆と号し土西観と号

境内あり又別観音堂あり

愛深堂左

上大願村の内あり村民持

西光寺左

日村あり真言宗大願山阿弥陀院と号
し中なる薬師又別浄陀一併あり孝謙天皇
の守護佛なりとて寺焼七石の 浄土を
浄土を娑婆附ありと云はる

大日堂

牛引天王社

稲荷社

八幡社

孝謙天皇陵

守乃境あり天平勝宝二年孝謙天皇
崩御尚存し清和天皇に遷
幸しつゝ之を侍ふれども
上大膳村の系分百姓とて
執事但馬の元
ありそ子孫今も
奉佐ありて
神明社左

大日堂左

泉藏寺持

醫王院左

真言宗宛内開雲寺の末瑞瑞光山と号
此中不動と云ふ薬師堂一宇境内に

稲荷社左

宛内越後守別当泉藏寺花表了石揚
大明神乃親を揚
此中夜磨社乃社本社のたあり

大楽院右

當山流修驗寺都官宿宝寿院觸下白鳥

山号流本寺不動を安樂寺と云ふ

熊野權現社右

多功村あり村民持

開雲寺右 浄心休所製

真言宗薬師寺村龍興寺の末丹明山阿

陀院と号し本寺延陀ハ重徳太子の伴

為寺ハ長年中寺欣七石の 浄光寺

と申し觸ふと云又是安年中日光

浄光寺の境内新に浄光寺建立なり

下浄光館ありて實文年中あり

浄光寺ありて 浄心休所なり

浄光寺の境内浄心休

所ありて浄光館と云ふ

浄光寺の境内浄光館あり

浄光寺表門光なりと左右の

堀と矢狭間あり浄光乃ちなる今に

存在せり

聖天堂

天神社

青龍權現社

鐘樓

右境内あり又安永の頃より大木の椿

ありしり辺に杉あり

泉藏寺左

真言宗境内開雲寺の末愛宕山地藏院

と号し以爲古火年燬失の後合に再建

及び境内に神の一社のあり

稲荷社右

村民持

鷲宮明神社右

村民持社右の北に北背後に柳乃

大木あり土人執事の本と名づく

宝藏寺右

多功村あり真言宗月村宝光院乃末

延樹山威徳院と号し本寺の額を安永

天神社

境内あり慶安二年社額と名づく

を賜ふ古より一國一社といひ傳ゆれど四祀
なく勅修の年代も傳へず神傳秘
て任職さしし洋せざる例なり

松尾社

稲原社

子権現社

牛取天王社

雷神社

大松明神社

薬師堂

天神の社地あり

見性寺古来二社あり

同村の内あり禪宗中絶四結城町安徳寺

乃末星宮といふ号あり尊親也を安徳と

開山傳室存徳ハ本寺第二世乃傳より多功

乃城より多功石見寺宗朝時依原あり

永祿六年一寺を造立し建昌寺と名

存徳を開山といふ所あり陸地着寺

を安徳といふ所あり安徳二年寺伝七石の

清承平といふ所あり文字も見性寺改ま

福くさくさ境内長宗朝乃墓あり
古城跡右

日村の内あり信古多切石負も宗朝其城
せり長二年宇都宮没為のとき廢
城より古石垣乃跡今も存あり

淨光寺右

大山村乃内あり天台宗上之村曹洞寺
の末華嚴山禪定院も宗朝本尊淨光を
安置そ安二年寺廢之石の淨光下と
獨ふ薬師堂一字境内あり

富士浅間社

村民持

雷電社左

地子権現社左

惠比須
大黒
合社左

己上之社村民持

愛宕社右

大山村の内あり別当淨光寺

五社大明神社左

日村の内あり村の禰も石橋前泉

寺の持より村の持より

高尾明神社

大杉大明神社

金比羅社

智勝大明神社

天王社

己上五社、本社の傍より

下古山村新田

江戸より廿之里之拾四町中河内

堀田益武進水野常刀小坂為志所十城

たふ更知所所送意のほり都宮殿

其後清料所より元禄十一年清代官

山田源右衛門支配のとき又人の元比

堀より元和二年日光清鎮座のほり

と性還乃迎了人部二朝のそあり

此中より移り後を遂了村居をなせり

と村の老翁かきりきり

愛宕社左

別當自性院

寶泉院左

真言宗村内花藏寺門徒以栄山と号し
本寺地藏を安んず境内に薬師堂あり
自性院

同宗日守の門徒本尊より千午観音を尊
り境内に斗の天王あり

花藏寺に
真言宗河内郡桑原村金剛定寺乃末
栄山貫勝院と号し本寺大日又地藏及び
不動の二像ありまた運慶の作なり
栄山館
尊寂年を信じて尚守と号す

逸より光明院大通寺と号し
建武三年此地に移り寺号も改あり
法大師種字乃曼陀羅と付室

聖天堂

薬師堂

稻荷明神
素戔尊権現
天神
足尾権現

合社

境内あり

古城跡左

城王乃名氏を侍え以て
星宮左

下古山村本郷乃結中より神を山根和泉
祭神々般石裂神經津主神根裂神乃
之神より乾元元年の勅詔よりして所
の祭事と形部との

大杉社

高尾社

稲荷社

此社地より西に大田村あり

東光院左

真言宗村内花藏寺門後本尊大日也

安居也

辨財天祠左

大日堂左

愛宕社左

天王社右

此道は伊弉諾宮の持中より

一里塚

日平橋より西四里

鞠堂新田 河内郡

江戸より廿四里拾七町又間久世長門守殿台
元和年中此地日光街道より一里
多切村の民住還乃た右に移り住す
一村落あり鞠堂地藏ありをそと
鞠堂新田と号す又下古山村乃
枝々ありしなり

地藏院右

真言宗多切村日光院門徒近原山守
号好中寺地藏堂なる不動を本尊と享保

年中同元 清系譜の所 清小休所也

地藏堂

境内あり侍いふむ一は遠古戰場と
七卒の爲に堀を築たそのとら堂を建
致死者の刀鞘をそとく屋を修りし事
鞠堂地藏と名付し今の地藏堂を
その堀乃に於りしなり又堀は北原地内

北原新田 都賀郡

北原新田 都賀郡

江戸より廿四里廿六町廿間石橋宿地内之

伊奈友之助清代官所なり

星官社

鞠堂新田乃持より地務院持

愛宕社

茂原村持山と堀の上と石と他持親

天神社

月村持

富士浅間社

上神良村の内より村民持

茂原村

江戸より廿四里之拾貳町廿間久世長門

順分尚村江戸の入り口より江戸郡

稲荷社

八村氏持

観音堂

教王院持

教王院

真言宗石橋宿扇雲守門徒穴穂山並

守と号に焼失の事あり其後守と号に
失ふ

愛宕社石

五願権現社石

大日堂石

高尾吸神社石

何事も教王院持ありては

雀宮宿

雀宮宿より廿五里指一町廿間石橋宿より

三里廿三町日光宿より都宮宿一武里

一町停留ありて由津代官所商宿之合宿
之宿よりより三徳元年辰堀原宿代
官所よりより支より日橋宿清科所より
商宿下横田村より分村より下
土地よりより基橋田村より東
のり真別市道乃辺り人民宿より
元和年中日光街道より
還りたあり後々徳中宿高野社
の社よりより雀宮村より宿跡より
より雀宮宿より宿より人宿より

大友文を賜ひ 結言を授けりて化書
 小日向高富は日々の心なむとて上中
 下三町へわたる宿の四家は古邊りて
 行く小倉氏へて其徳を以て守信の
 稱し其子氏部重安守都宮太師は其
 後長上島重春の長子都宮藤原
 女と配偶して名を總春と改め野別若
 賀郡志國の城司なりて其徳を以て
 其子の重忠とて稱し其子重文は没後
 之中より尚新の土着に實に其十八年

没を叙号を道義とて其子重忠の
 名を以て其子の孫は續けり今に
 一とてしりて守部重安の徳を以て
 是は一通也馬具文書六通を不為
 きの

官途
事成

如件

天正三年

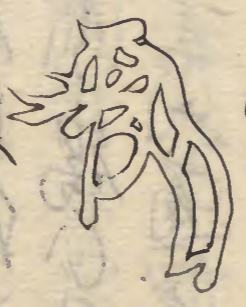
二月三日

網傳 啓

小念寺大進の友

け交南一ま出張之
心と交終一校幸沖ハ
感息食い何友送
校本一五了状女件

六月十日



小念寺系より

稲荷社右

塚の下のり村民持

外塚右

大日堂右

相外田村の内なり村民持

高尾明神社右

同上

稲荷社右

村民持

一里塚

日本橋より廿五里

太子堂丸

聖徳太子の立像二体を奉り正光寺持

正光寺丸

天台宗石田村感應寺門徒大通山地福

院と号し此寺流陀を安す境内に牛

頭天王社あり

金乗院右

真言宗西形社村成願寺の末光年焼

失して境内空地なり

大日堂丸

村民持

観音堂丸

観音流陀の二像あり村民持

常照子院右

中山御験武州幸子不動院配下

雀宮明神社右 清小休所

村の社を介り別當常照子院日光

寺系詣りこれ當社右の寺 清小休所と

なり此地東北の寺ありけり荒波山

加波山より峯をさへし尚社の末生を
昇りよき後行々一極あり以今
ま教説を歴舉して賢者の採摘し
まうと當社の縁起とありとのありて流
傳安し一最信用し一を最譽し云
人王二十一代朱雀天皇乃清和天皇と
和歌の心會ありりる。実定と初成と
いふ方のより淨海及び初成実定
の冠を打落しりる。後行成とありて
陸奥より下りてやの松を昇ぬへしと

雀宮明神社
御小休乃眺望

筑波山



加波山

雀宮明神



勅宣くそ 配流せしむる 行成陸奥
下里の松を 卒の世も 氣のまに
けいそは 年月と 送りける 或は
孫しき 老人あり かの松 出ぬる
ては 教まは 成而ち 出ぬる 之誠
この松を 卒ぬる 今に 都に 人
とて 下野國 ありし 俄に 病に
かゝりて 終る 身 留りぬ 行成 未期乃
一念 雀に 都に 死す 村民
これと かりし 小社と 建く 雀宮の 神



と宗火りるといふ

土人の後、多分神を友中が実方乃霊
け人むい、奥列に祀流せられを
かゝる靈魂を化し都にうつりしを
とて雀の宮、明神と号しといふ
一説は、尚社と号、都宮、明神の
とて、あゝの宮と号し、明神二荒山に
社壇あり、一時尚社と号し、本
し、明神社と号、都宮、宿、移りし
尚社もけ地、後とて

又云、ろ割の道、積下野、四、大遷

葉師守の別當と号し、夏日、近

出、道途、け下、亭を修、納涼の

とて、諸客もきりて、まゝ

り、その子の宮と名づけ、後、地、社

を建、四号と号し、そのまゝ、

とて、雀宮、徳りといふ

又云、むい、此里、修、者、雀のゆ、り

とて、姦婦の害をなぬれ、

とて、社を修、雀のまゝ、名、け、恩

報へて
又云社迎の樹は藁茂りて雀の宮と接
ふ申急神降を乞ひて雀の宮と接
申すともいひけり

横塚 右

塚と木立の内は稲の山初あり

大日堂 右

市田村の内なり村民持

十二所権現社 右

月村より村の境をもと村民持

大日堂 右

東横田村の内なり村民持

上横田村

江戸より廿六里之千四町廿間戸田越前より
順分村内松並木の右能波山蓋子の山茂木
山なりともいへるよふえたる福山出流山を平
山なりとも遠くまで

熊野権現社 右

村民持

観行院 右

真言宗西刑部村成願寺の末麻子具心
号と申す大日如来

慶徳院右

當山流終騎武列幸年不動院の末大坊
山と号と申す不動なり

臺新田

江戸より廿六里に河女間戸田越前守所分
此村と上横田村の分村とて横田新田中
嶋と申す本郷の字と古地越く此村の
き由なる貞享五年申より臺新田と

改

念佛塚右

年無明神社右

上横田村の地内あり村民持

浄菜屋場跡右

此年日光寺浄菜詣の如故の浄菜屋
と没すなり

天神社右

村民持傍に神明の小社あり

上横田村

一 飛地六町余 原々本村より

大日堂 右

村民持

江曾嶋村

江戸より廿六里拾一町 古間戸田越前守領

分

一里塚

日中橋より廿六里

龍尾権現社 左

大日堂 左

共々村民持

龍泉院 左

真言宗西刑部村成教寺の末本寺也

大日不靈の二像を立了又境内に浄院堂

あり

字都官宿

江戸より廿七里拾二町 古間雀官宿

二里と丁日光の下方下徳次郎宿二里十

二町申徳次郎宿二里十七町上徳次郎

宿二里二十一町 別街道白澤宿

二里廿八町と田越とを渡り伝ふる百丈
人足ぬ百人と云く日光奥列街道乃
終るを渡り住むの奥列街道石橋岩
乃東上三川村に當宿入口不動堂の寺
を經く下河原神明の邊に於て城内
今上河原小袋町に於て今泉村に達せ
しと云く和年申酉新河通に往還せ
しに於て日光奥列の街道に定むれしと云
地名の起り開闢の年代は詳らざるが
土人の傳ふる人皇十代崇神天皇武甕

日子豊城入者余と東國の總管と云く
下河原の國民豊の治り如き宮指し
あり事之民めつゝ宮津に於て宮を稱し
作記するに於てその名を中畧とす
宮都宮と唱く改め店名とし宮都宮と
或ハ蓬萊の店と唱ふれり性吉明神の傍
に於て
此の地は城下町三拾五所池と
所材木町材木橋町茂成町蓬萊町大黒町
觀音本町務地町松原町大町石町押切町
傳音町新宿町換活町日野町付馬町

小傳馬町上上河原町千石町寺町新橋町
裏所小谷町馬場町清藏寺町扇所叙文
町小門町曲所所今小路町小田町大工町
新石町宮嶋町等の町に懸坪敷指之石
石式百六坪慶長七年地子免除行了は
外所の願より地子免除の所あり江野町
此所佐野道並所麻沼道林町等あり
後年より宿河見月より賑ひ一
り世より願主様地より貢納乃敷を定め
新より中郷町新田町石町下河原町

河原町東新町菊新町等の所並して
並して實文心身願主代地子免除の町
と定じ右の敷十町通して宇都宮宿と
唱ふ毎月之八お十の日海りを除きて市あり
穀物及い諸品を買鬻として又商所の
旧町の年々没を筋ふ苦た馬の出は長
江宗尔後古馬の又は社林本付磨行は連人
社林田次所は馬の之所七人中里道受中里
宗貫赤堀道在外記大塚海次古馬
戸田亦也古馬の庭林宗喜合せく十人

慶長六年金津 清原のとき
東照宮小山清陣

台徳院殿宇都宮清陣ヲ移シ清原中ノ
拾人の者百せしれ宇都宮ハ金津邊所
多るよつて清原雷打ノ人爲ノ人質令
こつたけ清原中火の元公附まると地別
とる者百石多事清原亦一とるまきし
台原何つらり下り清原向残つたつと
のいられ斜つたれ 思ふとせられ金津
境目の清原内はつたつと入る名 命

少い者清原とて移り移るノ人質は城
蒲生殿三所家老蒲生源兵衛尉と後
一笠岡城ハ並家

東照宮小山 清原陣

台徳院殿宇都宮清原とつた清原志國
一清原を移せしれ志國殿去る及ハ濃
洲園原清一戦清原勝利つた清原陣此付
右の十人よつたつた清原伏見城
登る清原陣を賀しつた清原後
右れ清原志國の首大河内金吾

上徳下達一守都宮町之指之町地子先許
の控書を下し果ては文たし出也

當町中地子之奉承永の教先

之取手者 公儀之侍者為徳

定彼之等 吾沙汰者也 依仰

下知如仰

長七寺

大久保十三郎

寅三十一

長安

長谷川七郎

長福

伊奈波守

忠次

守部

町中

右十人の子孫通に御絶し今も棟木
長江成田の源の

と云右之人の事 松原の内 清月通是
出蠟燭式百挺献し 享和年改法礼も右
承和年出府せし中 隔年下り
武人出府も 清代幣との時月通
出府し 蠟燭式百挺を献し 時服式を
下し 裾ふり例りし 尚所の産物編布
真綿袋 袋紙 煙草 入浴 扇 瓢の
六種を 性たし 尚所より 出し 其外
生括乃 蠟燭あり 其外 貞林といふ
之の 尚所 居住し 蠟燭製造 妙を 傳

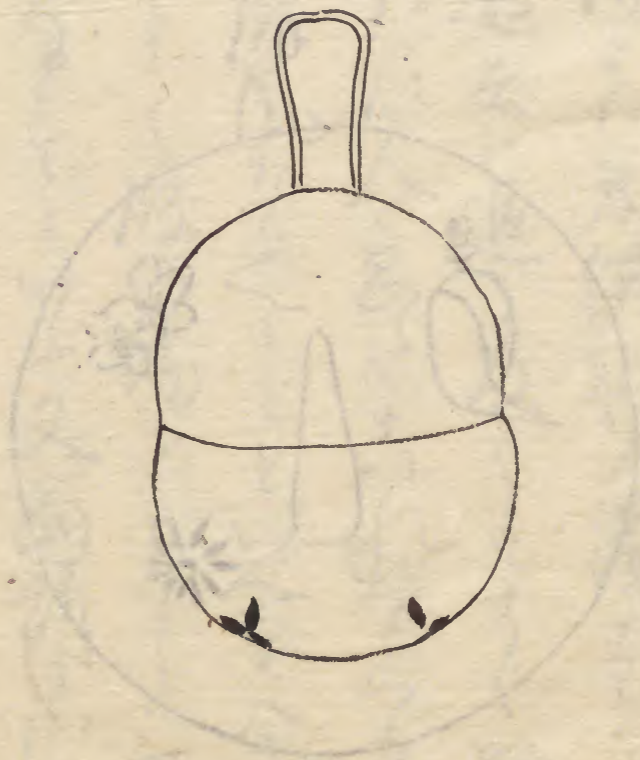
と云々 遺法を用ひ 貞林
楨名に 又實受の 以左 所 珍法 又
といふ 尚所の 産物 及び 珠 襦 袢 裂
と云々 尚所より 出し 子孫 傳 出 せし
其の 尚所 産物 を 献し 又 右邊 作乃
襦 袢 枚 等 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所
新し 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所
固し 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所
送 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所
他 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所 尚所

當節乃留作之正月元日二日の乃年候に
 年々るまのを川毎に流く大悪の湯を飲
 くと大悪の湯を流す并に水を湯に
 たらふまのを逃去に追及するに
 飲者
 二枚様、地よかに人言はれを
 あれ日光攻、浴風がく、
 米清水を磨いて飯の湯を一日の
 夕方の祝とて又高節の
 七水七本八の系と名つけ、
 多く、石の、

鉄鑿 鈴張又右衛門作



鉄鈴 同人作



あゝいゝの中來も洋のさしとまの名目
つゝを出さる

七水

追子向井

他堂所より
大早の洞を

咽津井

咽津の徳也

龜の井

山下寺の
つら

いゝまの井

江島原村の
つら

湯の水

二字の井

白庵の井

七木

七かまし木

山下寺の
つら

うゝの根

湯を
つら

塩庵根

咽津の
つら

普賢の根

同上

飛井援之株 城內あり

八河原

七里河原 今泉村あり

小河原

下河原 下泉町あり

先上河原 城內あり

寺河原 河原町あり

中河原 城內あり

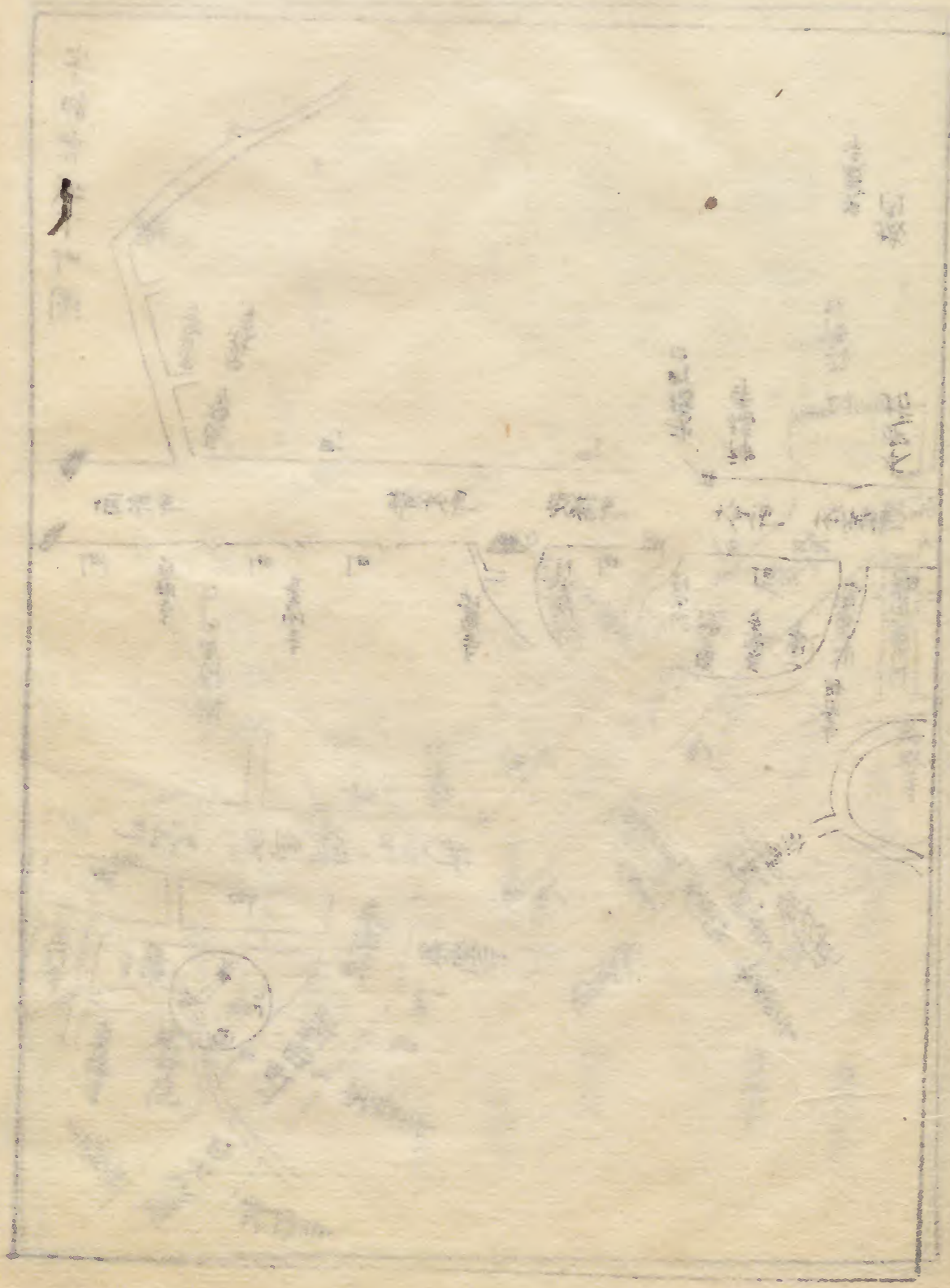
安蘇河原

上河原 上泉町あり

河と

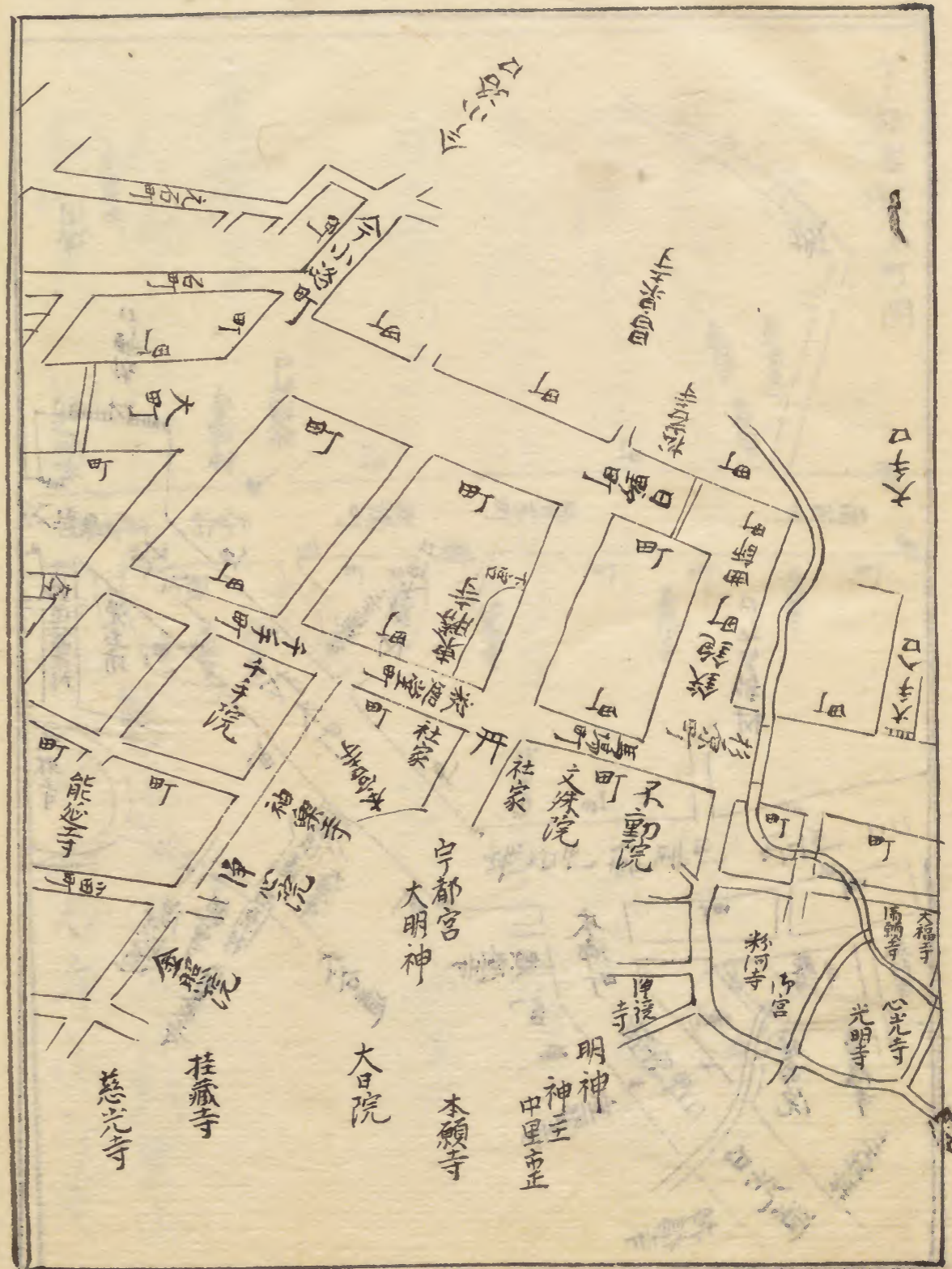
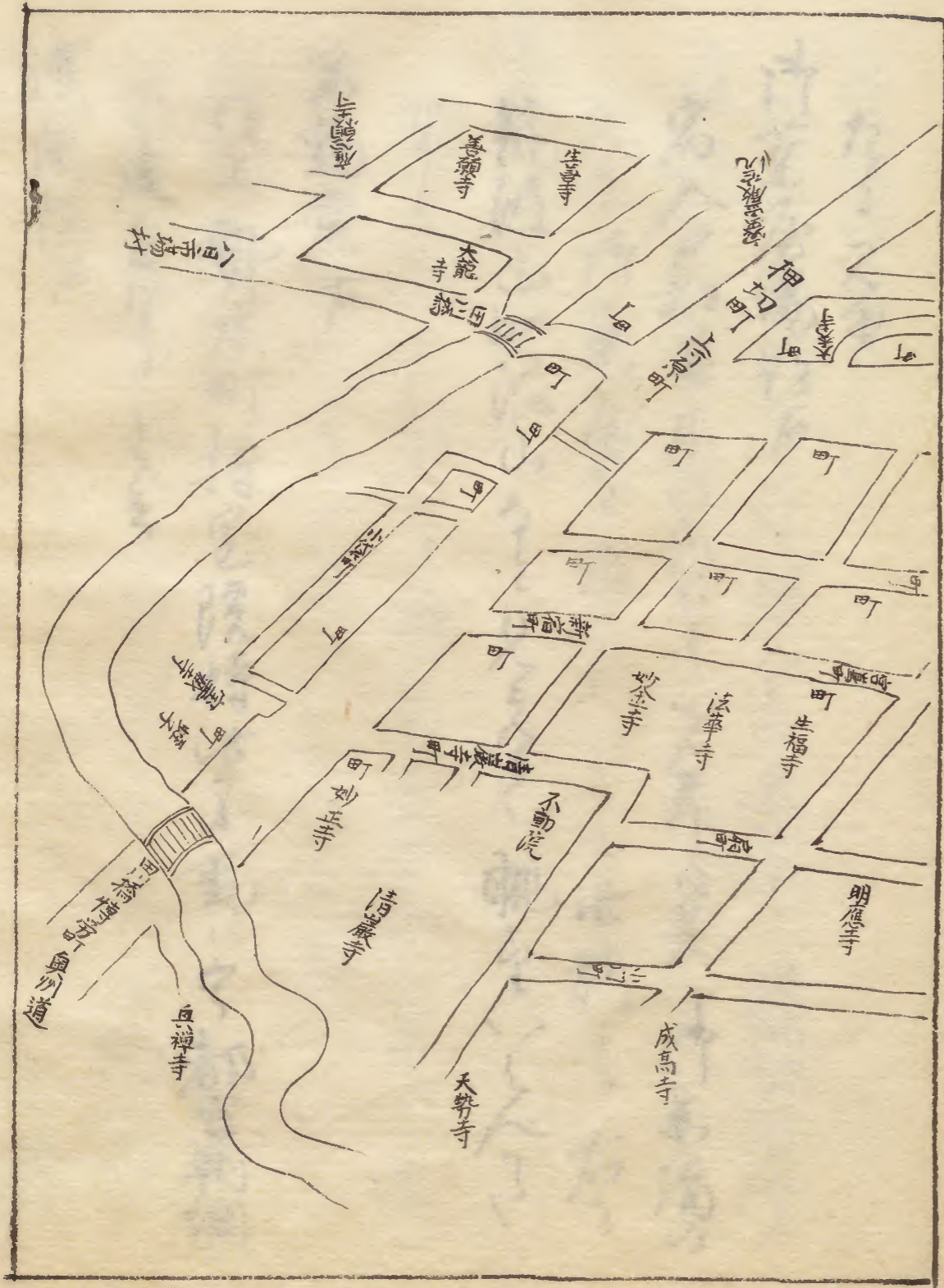
雀塚右

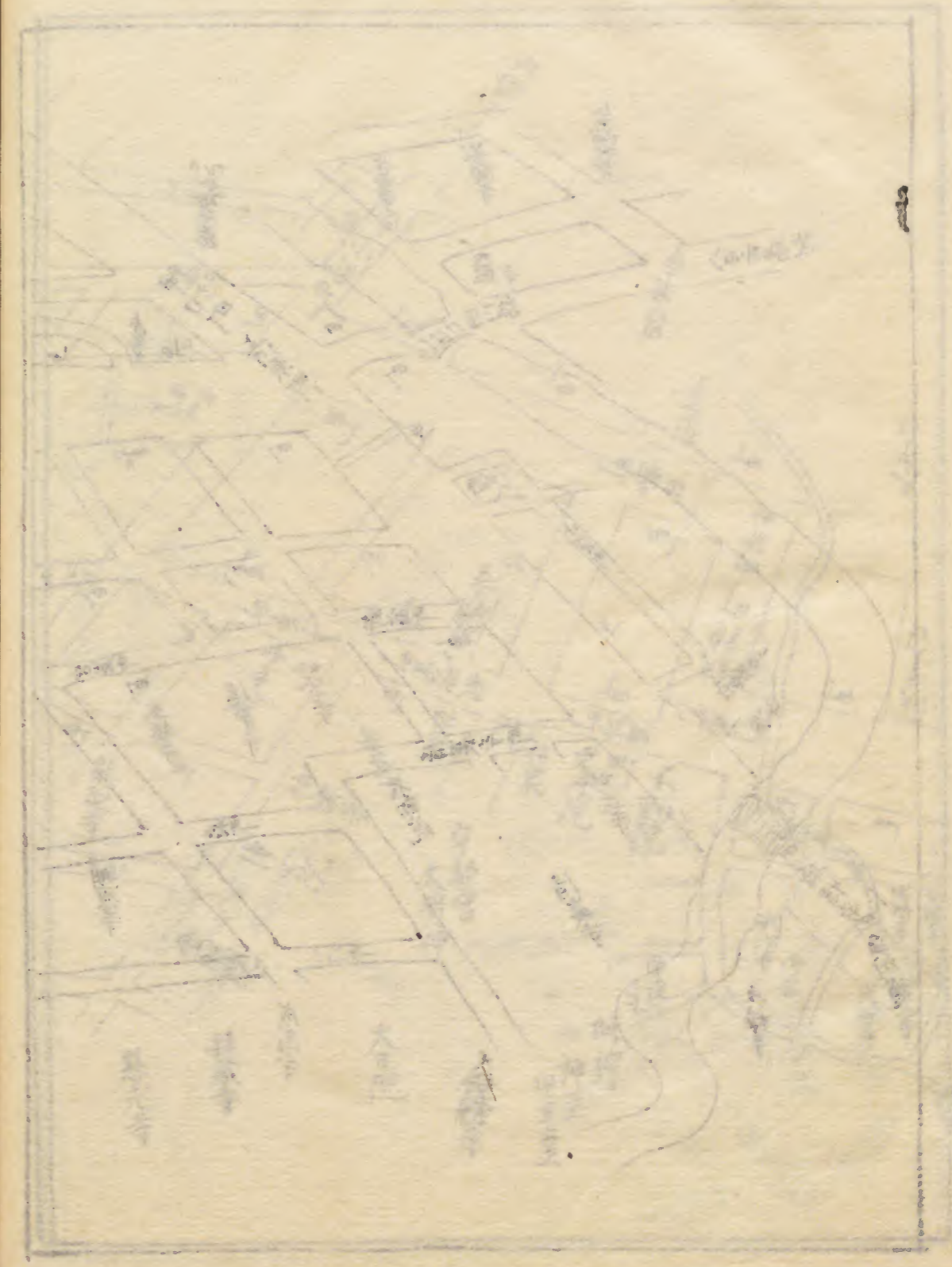
大塚より北に過りて高泉山日光山新里山
古塚志山田氣山赤城山照石右平山なり



宇都宮城下町圖







たふん市

津菜屋場記石

宿入口松並木の内より久年日足 津菜屋の
 とき津菜屋を没せりといふ世新より存
 筑波山加波山より見えし眺望せり

不勤堂石

月上誓木町持家院持世不勤ハ宇都宮朝綱
 の建立せりといふ

浅間社石

春日寺持

稻荷祠左

愛宕祠左

稻荷祠左

右之祠は小初より畑の中より

南新町

山を下りて町並を越つてきりぎりす

慈眼寺左

天台宗城内各祥寺の末よりを伝へて

寺は清くし

長福寺右

禪宗宿内臺陽寺の末圓城山親澤院と

号して中尊釈迦を安置し開山久山と

寛永八年寂と

宗見寺右

禪宗宿内榮林寺の末白雲山と号して慶

長年中興年大膳亮が昌開基

榮林寺右

禪宗都賀郡富田大申寺の末金剛山般

若狭と号して開基は宗見寺より中尊

新迦を安直に

白山社

稲荷社

境内より

基陽寺左

宗首本寺榮林寺より西原山圓門

院と号氏

伊勢宮

白山社

境内より

勢本町

往還自新町乃はきぢうしう明神伝

科乃勢用あり薪を地より出さるる

の唱へり

地藏寺左

時宗近江國坂田郡香場宿達華寺の末

二合山觀音院と号氏當寺は應永三年の

州創より同山と号氏あり寂年を自えを

おき地藏の石段の身代り地蔵といひ

けりれども年々いそぎをりゆめんに

むすむ波野の地を信仰せしもの死刑
よりゆるぎなき地をいふことゆるぎなき
あり首を落しし波野に不勤院の御寺
ありゆるぎなき地をいふことゆるぎなき
ありゆるぎなき地をいふことゆるぎなき
ありゆるぎなき地をいふことゆるぎなき
ありゆるぎなき地をいふことゆるぎなき
ありゆるぎなき地をいふことゆるぎなき
ありゆるぎなき地をいふことゆるぎなき

真言宗宿内生福寺の門徒あり

歌橋町

往還 觀木町の傍あり

歌橋町口右

城内出入りあり

大黒町

往還 歌橋町のつぎあり

神福寺石

本山修験式列幸も不勤院の配下本寺
不動圓堂の住しふ傍に之西大黒天を
並り

神明社

荒神社

稻荷社
八幡
天王合社

境内あり

蓮葉町

往還大黒町乃傍りあり

本定坊右

本山修験幸ふ不動院の配下境内の天神
稻荷乃友社乃天神と石を以て社屋を

他あり

報恩寺左

西原村地内あり禪宗京都妙心寺乃末
松嶺山と号し修験の末を安立と明曆
二年奥平大膳亮起立開山梁津玄棟と
寛文元年寂也

観音堂

稻荷社

境内あり

一向寺

月上時宗近江國坂田郡番場岩蓮華寺
の末清照山専修院と号し本寺は浄院派

立観音勢至の二躰ありき運慶の作あり
尚寺々建治二年宇都宮法之序景綱の
開基より開山の横智より正中二年寂
を尚ち慶安年中寺欣ありの 浄光寺
と稱する境内に熊野之社権現乃社
あり

長樂寺

同上一向寺の末清光山淨照院と号し
中なる法院の初像長二人許ありを安永と
建治年中宇都宮景綱の起立なり開山

一道正應三年寂して尚年かその法院ハ
世々汗軀阿法院と稱しては是利持氏
のち復佛よりして應永の次宇都宮法
之序滿綱と授ふと昂ち一字を造る
して安永より復佛と号し爾來宇都
宮家凶変の事行ふ際人の佛躰必
汗を流して遠近乃ち延信作して頗る
奇蹟ありと云

盛久院

同上福宗豊前國白川郡中津龍昌寺の

末東漢山と号し開山開基詳りしは

茂破町

性遠達菴町乃つてきり

佐野と右

城内出入口

榮王坊左

當山流修験江戶青山鳳閣寺乃配下伊勢
國世儀寺の末文殊院と号し本尊不動也
女並と境内に稲荷社あり石をまゝ他
れ小祠なり

佐野道

茂破町より九一折る橋町より西原村の
地續きあり

光琳寺

海土宗芝増上寺の末清映山松壽院中
号し本尊深院獨立觀音梵至の二尊也
に慈悲の作なり開山大蓮社誓誓說道を
寛永三年寂し尚寺と云ふ松峯門の外
より一の後年伊坂町より移りて其
火災よりかくかく堂宇なる灰燼と云ふ

延文長十年癸卯大膳亮城守のとき今此
地に移するとき
寮一室
松壽院と号し
観音堂
鐘樓
貞享五年鑄造の鐘をかく
内より
汁室
觀智國師書
一幅

挽路町

性遠茂破町のほきり

材木町

性遠挽路町のほきり

泉藏院右

真言宗名内生福寺の門徒あり

境内、電天堂稲荷祠あり

材木町口石

城内出入口あり

鹿沼道

本村中禰よりたゞ入換町より西原村地
續き

大運寺

濟土宗芳賢郡大澤村圓通寺の末光榮
山地新院と号す本尊弥勒立觀音勢
至とも惠心の作り、兩山信達社祐良茂
傳寂年を傳えを境内、福の社あり
石を以て作す

女養寺

一向宗西中禰寺の末北游山華岳院より

考と二十四輩の一二、中尊弥勒、惠公乃
作當寺料割の中多、いと怪し、此後、れ
もえにのち、西國、思川の末、うに、ま、あ、る
何某の妻嫉妬の悪念、ま、ま、思川の末、を
志、川、ま、ま、大蛇、ま、ま、大光寺村の池に
ま、ま、ま、人、ま、ま、食、ま、ま、教、ま、ま、法
人、ま、ま、ま、う、り、ま、ま、け、ま、ま、後、親、ま、ま、當、國、を、經
歷、ま、ま、申、ま、ま、土、人、ま、ま、心、を、招、清、ま、ま、ま、害、を、と
除、ま、ま、ん、ま、ま、を、ま、ま、親、ま、ま、當、池、ま、ま、ま、盧、ま、ま、ま、
佛、ま、ま、裡、を、移、ま、ま、り、遂、ま、ま、大、蛇、を、濟、ま、ま、度、ま、ま、ま、ま、付

吳番被郁々々天々花々々々地名を
 花見園と名付佛法有縁の地なりとて一
 字を創立し安養寺と号せり後年世の
 中にいへりてとて一々一々一々一々
 福を地々々々永享二年の以當り福を
 一々一々花見の園の四辺に主生願大光寺
 村ありとて花見の親鸞林ありとて
 寺ありとて石ありとて又花見の園縁起とて
 為寺ありとて寺ありとて寺ありとて
 信ありとて寺ありとて寺ありとて寺ありとて

汁宝

- 大蛇渡度阿流陀 親鸞他 一躰
- 聖徳太子画像 口筆 一幅
- 親鸞自他本像 一躰
- 十字名号 口筆 一幅
- 尊氏文書 一通
- 心經 口法筆 一卷
- 流陀画像 源空筆 一幅

薬師堂

安養寺持薬師ハ運喜の化アリ

觀專寺

一向宗西本願寺の末裔置山開華院と号し
本尊法師安河法師の他より尚守より北華
の内第十三番の四蹟より開基信願法師
と人皇十六代清和天皇より後流行縁も
於氏の玄孫依竹常陸公源義隆の末より
しと稱置之河守義清とて常列稱置の
城よりより出家入道とて尚國栗野鹿
崎と一字を造立し天名宗稱置山開華
院觀專寺と号しとて後建曆二年親鸞

當國化導のといは聞法歡喜とて少少と
改宗して石を伝授といはとて常陸法
正嘉二年寂もといは建曆年間より安
三年より栗野鹿崎に在り十六世致能
のといは城より奥平氏より乞と鹿沼道より移れ
つとて

什宝

親鸞午刻木像

一躰

宝治元年京都西洞院花園の禪房より
親鸞より彫刻し形見とて伝授

親鸞半刻木像



坊主より一信あり時り年七十あるに

新石町

性還材木町の續けりけし伝馬町
池上町のつらと屋壁もに石を他好
土蔵多し又人家の屋上多く石を並り
此地志しく風軟あふなり

傳馬町

性還新石町のほきり日光街道奥列
街道の分れぬれいさ道の石貫目改

所及い中陣傳馬會所よりとありて旅と
ふ所あり

稲荷社右

傳馬所口右

城内出入口あり

池上町

往還は馬町のほきり

大午入口右

池上町より入日先 浄土流のてら宇都宮城

に着 浄土流ともにはりて成

せし居

江野町

大午入口の内あり

聖龍寺

當山流修験 淨土青山鳳閣寺の配下鏡池

山と号し安永年中大岩のちり寺はを失

ふ云年尊不勤や女を

八幡社

稲荷社

神明社

墳内あり

京都宮城 津泊

城と宮の南あり奉丸三九三九内外乃郭
外郭より西原と歌橋町口休野と村木町口
侍馬町と新町口不動口大平門今小路門
下河原門号の門八の櫓臺あり尚城の西
北の方より北のともろくのそとに
とく櫓臺倉庫あり古木深樹し屏殿あり
てそ船概ありうらひありふれりの要害の
處ありうらひありふれりの首尾あり

是を田中よせめりしれと好く似たり
とせ人別り名つけく龜城と名せり
又不動城とも唱ふ築城のそとを平ら
大蔵冠鎌足十六世の後流栗田口道兼乃
四世兼房の子天石比叡山の座を二品法
親王宗圓後冷泉院の法号天喜六年に遷り
桓義八幡寺義家 勅命を奉り奥州
の送院女信貞任り宗任追討のそとに朝歌
退教の法を修めり宗圓の 勅命あり
則當國守都宮明神の社壇 或云田氣山不動の
壇前

おかく朝敵降服の法を治行し遠く奇
瑞ありしに帝沛感のりり宗圓を尚
國守都宮の守護儀を補せしめ尚城を築

きくく居住せし宗圓天永元年卒子源右経を城

こころ宗圓の嫡子八田備後權頭宗圓宗圓寂座平

治元其子左衛尉朝綱治元元年卒左衛尉業綱

建久三年流之序賴綱正元元年卒修理亮泰綱文應元年卒

名順蓮尾張守景綱永仁六年卒備前權頭貞綱正和

卒法名蓮昇備前權頭公綱延久元年卒伊豫守氏綱應安

山禪綱法名元下野守基綱康暦三年當國蒙承下野守満綱

應永十四年卒法名旭山端東肥前守持綱實公武茂綱家の男應永三十年卒

下野守等綱寛正元年卒法名兵部大輔明綱寛正

法名禪長江雲花元院下野守正綱實八等綱の二男文明九年卒右馬頭

成綱永正十三年卒左馬權頭忠綱大永七年卒法名下野

守興綱實八正綱の二男天文弥三郎尚綱始名俊綱天文十八年卒

下野守廣綱天正元年卒法名下野守國綱慶長三年卒

國綱在城の時慶長二年大岡秀吉の勅氣

を蒙り所領を没収せしめ宗圓より國綱に

承りしは二代より百年より宗都を

家断絶し城を淡野澤に長政の領とし

日四年蒲生元博と秀行の居城となり日
六年秀行奥列舎津に移し南城と大河
内金ヶ清水城代より日七年奥平大膳亮家昌
子瑞より子貞他と忠昌より子元和五年
徳川古河に移され日年本多上野成石純
子瑞より日八年故より奥列配流せ
り日年再び奥平貞他と忠昌と瑞の實
文八年忠昌卒して子大膳亮忠徳の
列山形に移され日年松平下徳と忠法より
瑞の天と和九年忠法奥列白川より移る

日四年本多下野と忠平と瑞より貞享二年
和列郡山より移りて日年奥平貞他と
忠章の後より元禄十年忠章卒して
其子徳と信より昌春丹後宮津に移され日
一十年河部對馬より瑞より家永七年正
邦より備後福山より移りて日年戸田山城と忠奥
子瑞より誠希と忠余日能登と忠盈より
寛延三年肥前津原より移りて日年松平之殿
次子瑞より瑞のより大和守忠恕肥前津原
より移られ家永三年再び戸田国幡と忠實

二福、能光寺志翰、後紙口寺志延を経て
口紙前寺志温城をくわ

吉祥寺

城内より天台宗東叡山末塙田山城就院
と号し、奥平家昌起立、開山尊榮實文
十五年寂中寺と改名を安んず

八幡社

観音堂

境内より八幡、奥平家昌の御法より
英巖寺

城内より、禪宗京都妙心寺の末城をくわ
家の菩提寺にれども、城を遷すの時にも
に移すに例られ、永くは寺号を存す
まのころ、松平家昌、城をくわ、本興
寺と号す

常念寺

城内より、此にあり、浄土宗、芳野郡大澤
圓通寺の末、龜井山西片院と号し、實念の
七年、奥平忠尚の起立、くわ、開山を廓達
社、良然、曆残といふ、實念、二十一年寂中寺

光徳寺の地なり

光徳寺

下河原内外梁瀬村より天台宗省月小徳
町室蘇芳の末明星山不動院と号し本寺
法苑の惠心之作開山定信正保二年寂境内
虚空蔵堂後麻堂なり

國恩寺

口下より福宗系都妙心寺の末惠光山と
号し寛永九年癸卯忠品の開基なり
開山を栗山といふ慶安二年寂本寺親

迦を安んじ境内に福壽社あり

本郷町

往還傳馬町より在りおき戸為村より通
り光道なり

廣隆寺左

本山快駱武則幸の不動院の配下なり
本郷山妙賢院と号し開山智礼房建久
年月の開基なり平る不動を安んじ
長一人式寸行基の地

一里塚

日本橋より廿七里

宝勝寺左

時宗宛、鄉村應願寺の末蓮池山蓮華院と号し、本寺は院為寺と應長元年の起立、開山の遊行二世他阿上人真教和尙元應元年寂と為寺と慶安年中と願之存の清和寺を賜ふといふ境内は熊野権現社なり

新田町

性還寺、郷町の北きなり

桂林寺

禪宗宛、内田中成高寺の末松峯山祖心院と号し、本寺は正觀名長三尺余、聖徳太子の作、寺傳り云、高寺は應永三年、京都宮城より下野と満綱と室祖心院宮山玉芳凡菩提のころ、城内松の峯より一寺を起し、松峯山祖心院と名づけ、桂林村と号す、寺殿二十石を寺所、一尊、徳正、今湧沙應寺三代竺山を譲りて、開山とす、一は竺山を、應永十年寂と存、禄巳年、にあり、今此

六

地。後一、堂宇再造せり中興開山を感
翁といふ天正十六年寂とす安永元年ち所
之拾遺の 清浄宗をとり端ふ

天神社

稻荷社

鐘樓

境内より稲荷の石の祠あり

左膳坊左

當山流修験江戸青山鳳閣寺の配下持福
院と号し中寺不動と安永と

不動堂

三尊権現社

八幡社

右境内より

岩末眺望

宇都宮岩末下戸系村境より右乃か
下戸系村の山、野山長園山沖の森を
又厚く遠くは系山の連山より一
まへにたのこい麦畦より天高く地洞
遠くは中九新田の林二子山板倉村山戸

室山田氣古賢志新果鞠掛思徳成所
逸の山亦乃い上列戦後の遠山日光辺の
山は清のこく連、算急く景勝筆
紙はく〜が〜

是より下第七卷下戸系村に〜
又京都宮城下町奥列道はわ〜
一巻と〜い巻の次は加〜
下町園は照賢と〜

日光道中畧記卷之六上

